

善隣

No.563 通卷830

2025年（令和7年）9月1日発行（毎月1日発行）

2025

9



一般社団法人 国際善隣協会

新ホームページのアドレスは <https://kokusaizenrin.org/>

当協会のホームページは、15年前から運用を開始し、トップ画面上で月刊『善隣』誌に掲載された講演記録を閲覧できるようになっています。この蓄積された貴重で膨大な講演記録資産を整理・分類し、多層的な検索ができるようにするため、ホームページのリニューアルを進めました。併せて、YouTube



による講演動画の配信も手がけてきました。これら活字と動画による講演資産を、新ホームページ上に新設した「国際善隣文庫」ページに収納し、いつでも誰でも検索・閲覧できるようにすると、当該協会活動の情報発信の一助となるように期待しています。

また、1998年に当協会が拓殖大学に寄贈した約25000点の旧外地の資料は、拓殖大学図書館に「国際善隣文庫」の名称で保管されています。新ホームページの「国際善隣文庫」ページからその目次が検索可能で、当協会会員であれば拓殖大学図書館で現物を閲覧できます。さらに「関連リンク」ページでは、旧外地や近隣諸国に関する資料を検索できる代表的なホームページや近隣諸国の大使館およびそれら地域と友好親善・交流を行っている代表的な団体も紹介しています。

(高橋昇)

善 隣

目 次

2025年 9 月号

公開講演会記録

中国東北部長春市に残る旧満洲国時代の建物丸田洋二 2

東京大空襲を語り継ぐ——東京大空襲と私の体験濱田嘉一 12

「花岡事件」80周年慰霊祭への参加井出亜夫 21

陶陶俳壇馬場由紀子 25

中国ウォッチング編・訳 上松玲子 26

ホームページが新しくなります高橋 昇 表 2

協会通信 28

2025年 9 月の行事予定 29

みんなの写真館

北京大学 博雅塔（姜晋如）表紙／28

書画に見る日中交流の精神世界⑦

（橘倉酒造不重来館）表 4

—— 善 隣 第563号 通巻830号 ——

2025（令和7）年 9 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051

FAX 03（3573）1783

発行人 井出亜夫

編集人 朝浩之

編集協力 山谷悦子、古田紀子

印刷所 (有)ゆにおんプレス

TEL 048-834-1201

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

中国東北部長春市に残る
旧満洲国時代の建物

元清水建設株式会社 主任技師・一級建築士 丸田洋二（会員）



はじめに

日本は日清・日露戦争後、台湾と朝鮮へ、その後中国東北部に進出している。植民地として統治した台湾と朝鮮、清朝最後の皇帝（愛新覚羅溥儀）を担ぎ出した傀儡国家満洲国を入れ、三つの国へ多くの日本人が移り住み国家を動かしていた。

しかし昭和20年8月、日本の敗戦でその活動に幕を閉じた。令和7年はあれから80年を迎えることになる。台湾、朝鮮、満洲は日本人の手により都市が

造られ、百年近くたった今日でもその一端を見ることが出来る。

戦後80年、当時そこで国造りに関わった人も鬼籍に入り、昔を語る人もいなくなるのは寂しいことである。満洲国の国都新京に生まれた私は社会人になり建設会社に勤め、定年退職後満洲国の建築に興味を持つようになった。幸い会社のアーカイブに満洲国の建築関係の資料があり、それを利用できる立場にもあった。また当時現地において発行された『満洲建築雑誌』を入手できた。普段語られることのない満洲国の建築を述べてみたい。

満洲国の誕生と消滅

満洲・満洲国と言っても現在ほとんどの人には馴染みがないと思う。今から約120年前、日露戦争後のポーツマス講和条約（明治38「1905」年調印）によりロシアが敷設した東清鉄道南部線（長春北方の寛城子駅〜旅順駅間約752^キ）が日本に割譲された。

この地帯は当時「満洲」と呼ばれていた。日本は鉄道を運営するため「南満洲鉄道株式会社（以下満鉄という）」を設立（明治39年）、そして鉄道沿線

および附属地を警備するため日本陸軍は関東軍を配置した。

満鉄沿線の大連、大石橋、鞍山、奉天、四平街、長春の都市には日本人が多く住むようになり、満鉄は国に代わり種々の施設を整えていった。

一方満洲の経営をどのようにしようかと企てていた関東軍は、昭和6年9月18日満鉄奉天駅（現・瀋陽駅）近郊の柳条湖で線路を爆破、これを中国人の仕業として満洲全土を制圧、その後、清朝最後の皇帝「愛新覺羅溥儀」を担ぎ出し昭和7年3月1日、日・満・鮮・漢・蒙民族による「五族協和」と「王道国家・楽土建設」を建国理念とする満洲国が誕生した。その後日本は米國相手に戦争に入り昭和20年8月敗戦、満洲国も消滅した。満洲国が存続した期間はわずか13年5か月であった。

戦前期外地における建築家の組織と建設業者

日本は20世紀の前半、二つの植民地（台湾、朝鮮）と一つの傀儡国家（満

洲国）を持っていた。いずれも長期の支配を考え都市計画・産業振興・各種施設建設を行っていた。そこでは多くの建築関係者が活躍しており建築家や技術者の組織が誕生、活動の記録は機関誌に掲載されている。

台湾では『台湾建築會誌』、朝鮮で

は『朝鮮と建築』、満洲では『満洲建築雑誌』が発刊された。

ここでは『満洲建築雑誌』と清水建設が戦前発行した『清水組 工事年鑑』を基に中国東北部長春市に残る満洲国時代の建物を紹介する。

このなかで『満洲建築協會雑誌』は主として、満鉄関係の建築を取り上げている。昭和9年『満洲建築雑誌』と誌名を変えた後は満洲国の都市計画、竣工建物の紹介、暖房設備、外国の建築関係情報などが取り上げられている。

表 1 戦前期 台湾、朝鮮、満洲における建築家の組織と機関誌発行状況

地域	台湾	朝鮮	満洲
組織	台湾建築会	朝鮮建築会	満洲建築協会
発足年月	昭和4(1929)年1月	大正11(1922)年4月	大正9(1920)年11月
機関誌名	台湾建築会誌	朝鮮と建築	満洲建築雑誌 昭和8年まで 満洲建築協会雑誌
編集主体	台湾総督府官房営繕係	朝鮮総督府建築課	南満洲鉄道(株)建築課
創刊	昭和4年3月	大正11年6月	大正10年3月
終刊	昭和19(1944)年9月	昭和19(1944)年末	昭和20(1945)年1月
会員数	883人(昭和12年) (正・準・賛助会員を含む)	662人(大正13年) (会員種別は不明)	1,852人(昭和17年) (正・準・賛助会員を含む)
発刊数	82冊	約260冊	278冊



写真 1 『満洲建築雑誌』(昭和9～20年までの一部)

満洲国の建築

当時、日本から多くの建築家や技術者が中国東北部に渡り、理想の新国家建設を夢見てたくさんの建物を建築している。

しかし日本が戦争に入った後（昭和17年）は、都市の住宅難、建築資材不足に対応した簡易住宅、満洲開拓民の土造り住宅などに関する記事が多くなっている。



写真2：『清水組 工事年鑑』(昭和10～16年までの7冊)

昭和7年3月満洲国が建国、首都は吉林省長春に置かれ「新京」と改名された。一寒村にすぎなかったところに日本にない都市計画が実施され、政府庁舎、住宅、学校、病院、銀行、商店などが建てられ大きな都市が生まれた。いずれも日本人の設計、日本の建設業者が施工したものである。満洲国建国後最初に建築されたのは官庁で、これは着工順に第一庁舎（市公署）、第二庁舎（首都警察庁）、第三庁舎（財政部）、第四庁舎（國務院）、第五庁舎（民政部）、第六庁舎（外交部）、第七庁舎（司法部）、第八庁舎（交通部）、第九庁舎（治安部）、第十庁舎（經濟部）と呼ばれている。

これと並行して政府代用官舎、教育施設、病院、商店、住宅その他多くの建物が建てられた。以下に現在も使わ



写真3上：第一庁舎（特別市公署、1945年以降建て替えられた）
写真4下：第二庁舎（首都警察庁、現・長春市公安局）
（いずれも『満洲建築協會雑誌』昭和8年11月号掲載）

れている主な建物を紹介してみる。

第一庁舎と第二庁舎は同じ平面の2階建て建物で外観に違いを見せている。第一庁舎は戦後建て替えられ、長春市人民政府の庁舎となっている。

また**第三庁舎と第五庁舎**も同じ平面の2階建て建物である。建国間もない時期で、早期の建築が要求されたので、同じ設計図を利用したものと思われる。平成28年6月、屋根瓦葺き替え工事



写真5：第三庁舎（財政部、現・浦東発展銀行支店。
偽満皇宮博物院提供）



写真7：第五庁舎中央宝形屋根小屋組に取り付けられた棟札（北京房修一建築工程有限公司提供）



写真6：第五庁舎（民政部、現・吉林省石油化工設計
研究院。清水建設所蔵）



写真9：第九庁舎（治安部、現・吉林大学第一医院）



写真8：第四庁舎（国務院、現・吉林大学医学院）

中の第五庁舎を見学する機会があり屋根に上がると、工事担当者から「キヨミズ組の棟札があります」と言われた。さっそく建物中央の宝形屋根小屋組（木造）を見ると「満洲國第五廳舎施工清水組」の棟札が見えた。

日本では戦前の古い建物の屋根裏に棟札が見られるが、満洲国の建物にも棟札が残っているのを見たのは、私が初めてではないだろうか。

この後の庁舎は4階建てになり、外観のデザインにも工夫がなされている。

満洲国皇宮の建築

その一つが外壁のタイルで、当時日本でも流行したスクラッチタイルが多用されるようになった。

なかでも**第四庁舎**と**第九庁舎**は当時の順天大街（現・新民大街）始点の左右に建設され圧倒的な大きさを誇っている。

建物の外壁にはスクラッチタイルが貼られ、庁舎建築の風格を今も漂わせている。

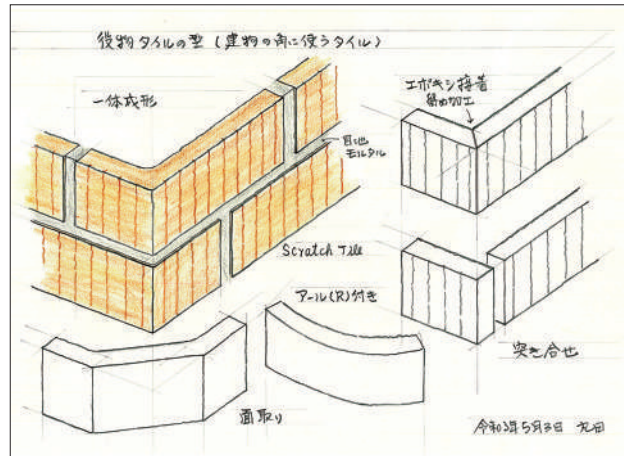


写真10：スクラッチタイル説明図。当時は左上の一体成形タイルが使われていた

「皇宮」とは日本でいえば皇居に相当するものである。満洲国皇帝愛新覺羅溥儀の居城で、多くの建物が残っているが、ここでは代表的な勤民楼と同徳殿を紹介する。

勤民楼は明治44年建造の吉黒樵運局の建物（煉瓦造2階建）を満洲国建国時執政府として利用したものである。昭和9年3月1日の帝政移行に伴い、この建物の大改修工事が極寒の1月7日から2月28日にかけて行われた。溥儀は**勤民楼**と命名して満洲国崩壊の日までここで執務していた。昭和21年2



写真11：第十庁舎、經濟部（現・吉林大学白求恩「ベチューン」第三医院）。外壁はテラコッタタイル

階部分が火災で焼失し、応急的に修理されたが、平成12年から復元工事が行われ平成17年に完了している。

一方勤民楼は満洲国皇帝溥儀の住まいとしてあまりにもお粗末なので、順天大街の北に大きな宮廷建築が計画されていた。

しかし工事期間が長期にわたるので、仮の宮廷が皇宮内に建設されることになった。これが**同徳殿**である。

鉄筋コンクリート造2階建て、一部地下あり。屋根は木造トラス組瓦葺き。屋根瓦は黄金色、大棟と隅棟に鴟尾・



写真12：満洲国皇宮内の中心的な建物、勤民楼。
□の字形の平面形状で内部は吹抜け



写真13：同徳殿正面玄関、建物は南面し長辺約90m、奥行約25m

鴟吻・螭吻を備え、皇帝の住む建物にふさわしい造りになっている。

1階には大きなホール、貴賓応接室、映写室、ピアノ演奏室、ビリヤード室、東南部に日本間などを備えている。

2階には溥儀の執務室と寝室、側室の書斎と寝室、化粧室がある。

溥儀は日本が建てたこの建物に盗聴装置が仕掛けてあると見て利用しなかったと言われている。

皇宮内の建物は当時のまま残され、「偽満宮博物院」として中国国民の

社会教育施設として公開され、連日多くの参観者が訪れている。

関東軍の建築

満洲国を支配した関東軍は、大連西方旅順の庁舎をいち早く移転、新京に「関東軍司令部」を新設している。

この建物は現在「中国共産党吉林省委員会」が使っている。門の前に立ちカメラを構えようと、すぐに門衛（公安）が制止する厳しさである。平成28年5



写真14：関東軍司令部庁舎、玄関前の樹木が成長して建物全景は撮れない

月特別の許可を得て内部に入ることができ、内外の写真撮影ができた。外観は当時のままであるが、正面下層入母屋屋根懸魚下の菊の御紋はなくなっている。建物は洋風建築の屋上に瓦葺きの屋根をいただく帝冠様式である。

この関東軍司令部庁舎の7万6000平方メートルにおよぶ広大な敷地の西側、森に囲まれたところに「関東軍司令官官邸」がある。

関東軍司令部庁舎と司令官官邸の建物外壁タイルは、当時よく使われてい



写真15：関東軍司令官官邸、ヨーロッパの古城を思わせる煉瓦造の建物



写真17：満洲電信電話株式会社（現・中国移动通信の社屋。『満洲建築雑誌』昭和10年11月号掲載）

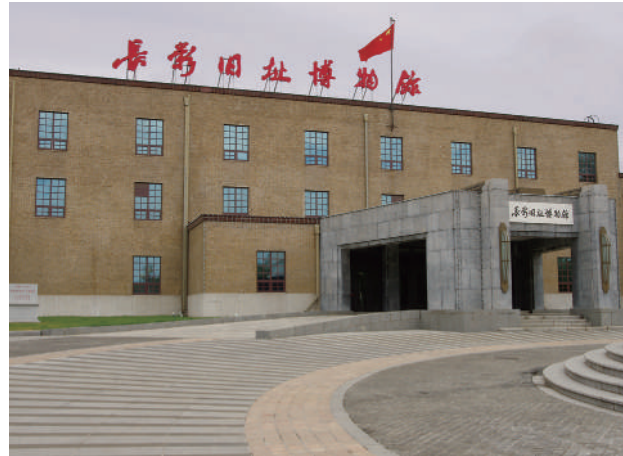


写真16：満洲映画協会（現・長影旧址博物館）正面建物の裏に煉瓦造のスタジオがある

公共施設などの建築

たスクラッチタイルである。
司令官官邸は現在、宿泊・迎賓施設への改修工事が行われている。
満洲で娯楽映画を制作していた満洲映画協会のスタジオを持つ大きな建物も関東軍の発注である。
正面に事務部門の3階建て建物があり、裏には煉瓦造の階高の高いスタジオ6室を持つ建物は現在「長影旧址博物館」として一般に公開されている。

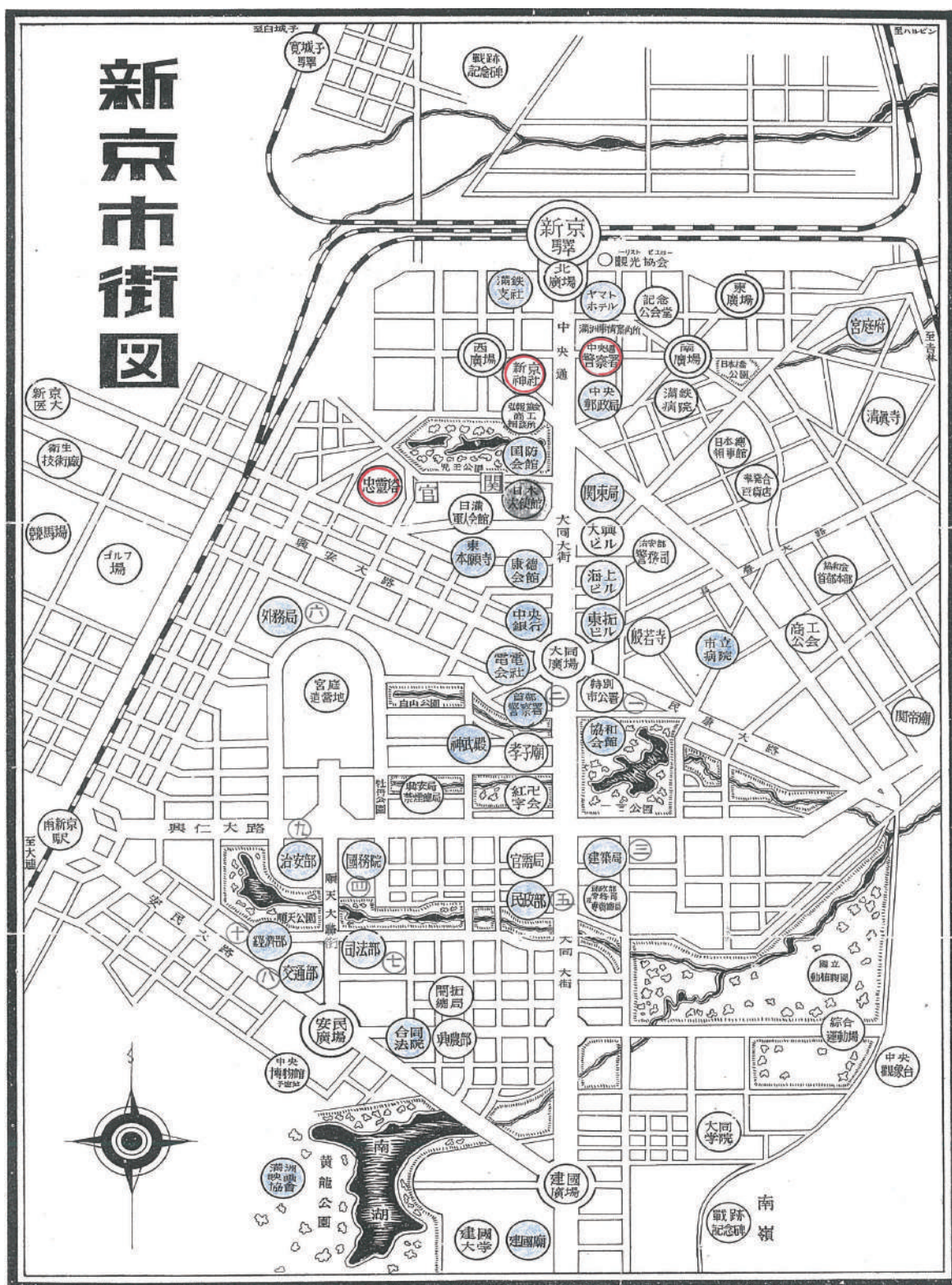


写真18：満洲中央銀行総行（現・中国人民銀行長春分行）

満洲国建国後、新京特別市（現・長春市）の都市計画がまとまると多くの役所、公共団体・企業などが進出、事務所を構えるようになった。
まず中心部の大同広場に面して満洲電信電話株式会社と満洲中央銀行総行建設の槌音が響いた。
新京駅前には新京満鉄綜合事務所が、その延長にできた「大同大街」の東側には新京特別市立医院、西側には新京神武殿が建設された。
これらと並行して教育施設、医療施設、住宅、舎宅、店舗、宗教施設など



写真19：新京満鉄綜合事務所（現・長春铁路事務所）



註1 当図は満鐵奉天鐵道局旅客係発行 都市案内小冊子『新京』（昭和16年7月10日）の折込み地図である

註2 図中の①～⑩は庫舎番号、関は関東軍司令部庫舎、官は関東軍司令官官邸を示す

註3 ●は現存建物を、○は解体された施設を示す

表2 長春市に残る満洲国時代の主要建物建築概要

2024年12月24日執筆者作成

分類	当時の建物名称 現在の建物名称	構 造 規 模	建築面積 (㎡) 延床面積 (㎡)	建築工事費 坪単価 (円/坪)	着工年月日 竣工年月日	設計者 施工者	掲載雑誌 注 記
政 府 庁 舎	第一庁舎 特別市公署 解体して建替え	RC幕壁造 B1-2F-P4	2,178.0 5,131.0	298,184 192.1	昭和 7年 7月20日 昭和 8年 5月30日	需要処営繕科 福井高梨組	『満洲建築協会雑誌』 昭和 8年11月号
	第二庁舎 首都警察庁 長春市公安局	RC幕壁造 B1-2F-P4	2,178.0 5,203.0	303,083 192.5	昭和 7年 7月31日 昭和 8年 6月15日	需要処営繕科 三田組	『満洲建築協会雑誌』 昭和 8年11月号
	第三庁舎 財政部(建築局) 浦東発展銀行	RC幕壁造 B1-2F-P1	2,190.0 5,319.0	246,000 152.9	昭和 8年 5月 昭和 8年12月	需要処営繕科 清水組	『建築雑誌』昭和10年 4月号 工事費は清水組資料による
	第四庁舎 国务院 吉林大学医学院	RC幕壁造 B1-4F-P2	4,510.0 19,115.5	約250万円 (付帯設備込)	昭和 9年 7月19日 昭和11年11月20日	需品局営繕科 大林組	『満洲建築概説』 p.451 『満洲建築雑誌』昭和12年 1月号
	第五庁舎 民政部 吉林省石油化工設計研究院	RC幕壁造 B1-2F-P1	2,190.0 5,319.0	270,000 167.8	昭和 9年 4月 昭和 9年11月	需要処営繕科 清水組	『建築雑誌』昭和10年 4月 工事費は清水組資料による
	第六庁舎 外交部(外務局) 太陽会大飯店	RC幕壁造 B1-2F			昭和10年 月 昭和11年 月	仏国のBROSSAD -MOPIN社 設計・施工	『満洲建築雑誌』昭和11年 7月号
	第七庁舎 司法部 吉林大学医学部	RC幕壁造 B1-3F-P2			昭和10年 4月 昭和11年 8月	営繕需品局	『満洲建築雑誌』昭和11年 8月号
	第八庁舎 交通部 吉林大学予防医学院	RC幕壁造 B1-3F-P1	1,980.8 8,068.5	446,706 183.0	昭和11年 8月18日 昭和12年12月10日	営繕需品局 長谷川組	『満洲建築概説』 p.449 『満洲建築雑誌』昭和13年 2月号
	第九庁舎 治安部 吉林大学第一医院	RC幕壁造 B1-4F-P2	3,299.0 15,789.2	1,011,937 211.8	昭和11年 8月 昭和13年11月	営繕需品局 大林組	『満洲建築概説』 p.449 『建築雑誌』昭和13年 6月号
	第十庁舎 經濟部 吉林大学第三医院	RC幕壁造 B1-4F-P1	2,142.0 10,254.0	774,000 249.5	昭和12年 7月17日 昭和14年 7月31日	需品局営繕科 清水組	『満洲建築概説』 p.449 『満洲建築雑誌』昭和14年11月号
	中央法衙/合同法院 解放軍461医院	SRC幕壁造 B1-3F-P2	3,852.2 14,882.3	848,667 188.5	昭和11年 6月25日 昭和13年 7月31日	営繕需品局 高岡組	『満洲建築概説』 p.449 『建築雑誌』昭和13年 9月号
皇 宮	勤 民 楼 偽滿皇宮博物院	煉瓦造 2F	603.0 1,206.0	47,889 1,206.0	昭和 9年 1月 7日 昭和 9年 2月28日	需要処営繕科 清水組	『満洲建築雑誌』昭和 9年 3月号 工事費は清水組資料による
	仮官廷(同徳殿) 偽滿皇宮博物院	RC造 B1-2F	1,868.0 3,571.1	561,000 519.2	昭和12年 4月 昭和13年11月	営繕需品局 戸田組	『満洲建築概説』 p.449 『解密 偽滿皇宮』 p.49
	関東軍司令部庁舎 中国共産党吉林省委員会	RC幕壁造 B1-4F-P1	3,277.0 13,424.0	1,700,000	昭和 7年 8月 昭和 9年 8月	関東軍経理部 大林組	『満洲建築雑誌』昭和 9年11月号 工事費に輸送費人件費は含まず
関 東 軍	関東軍司令官官邸 内外改修工事中	煉瓦造 B1-2F-P1	≒1,400 ≒2,700	328,000	昭和 8年 5月 昭和 9年 7月	関東軍経理部 清水組	『満洲建築雑誌』昭和 9年 9月号 工期、工事費は清水組資料による
	満洲映画協会 長影旧址博物館	RC幕壁造 B1-3F	11,286.7 17,450.9	938,104 177.7	昭和13年11月 1日 昭和15年 3月31日	関東軍経理部 清水組	『満洲建築雑誌』昭和15年 3月号 工期、工事費は清水組資料による
	満洲電信電話株式会社 中国移動通信	RC幕壁造 B1-4F-P1	3,967.7 17,424.2		昭和 9年 3月30日 昭和10年10月30日	満洲電信電話 高岡又一郎	『建築雑誌』昭和13年 9月号 『満洲建築雑誌』昭和10年11月号
企 業 等	新京満鉄綜合事務所 瀋陽鉄路局長春事務所	RC幕壁造 B1-4F-P1	1,839.8 9,724.0		昭和10年 6月13日 昭和11年 7月 9日	満鉄本社地方部 錢高組	『満洲建築雑誌』昭和12年 3月号
	新京特別市立医院 吉林大学第二医院	RC幕壁造 B1-4F	2,575.3 9,128.7		昭和10年 7月10日 昭和11年10月30日	新京特別市公署 大同組	『建築雑誌』昭和13年 9月号
	満洲中央銀行総行 中国人民銀行長春分行	SRC造 B2-4F-P1	4,100.0 26,075.5	約500万円 (付帯設備込)	昭和 9年 4月 昭和13年 6月	西村好時 大林組	『満洲建築雑誌』昭和13年11月号
	新京神武殿 吉林大学講堂	RC幕壁造 B1-4F-P1	1,839.8 9,724.0	1,400,000	昭和10年 6月13日 昭和11年 7月 9日	満洲帝国武道会 竹中工務店	『満洲建築雑誌』昭和16年 4月号

註1 建築構造は鉄筋コンクリート造はRC、鉄骨鉄筋コンクリート造はSRCとする。

註2 満洲国で発達した柱・梁・床版が鉄筋コンクリート造、内・外壁を煉瓦積みにした構造はRC幕壁造とする。

註3 建物階数表示は地下はB、地上はF、塔屋はPとする。

註4 政府庁舎および皇宮設計者の組織名は満洲国に属するものである。

註5 表には建築工事費を記載している。付帯設備(電気、給排水、暖房)工事費は、(建築+付帯設備)の約30%と見てよい。

註6 第十庁舎(經濟部)の建築工事費には付帯設備工事費が含まれている。

註7 中央法衙(合同法院)の延床面積は『建築雑誌』に74,859.57㎡と記載されているが、「1」を「7」と誤植している。



写真21：新京神武殿（現・吉林大学講堂）



写真20：新京特別市立医院（現・吉林大学第二医院）

が整備されていた。
これらの建物は昭和16年満鉄発行の都市案内小冊子に折り込みの「新京市街図」（9頁参照）に示されている。

結びにかえて

満洲国の首都として「新京」が輝いたのはわずか13年5か月の期間であった。その間首都機能が拡張され多くの建物ができ、多くの日本人が移住し、一大都市ができた。当時そこで活躍していた人は、満洲は戦場から遠く離れており日本が負けるなど思ってもいなかっただろう。

しかしこの都市建設は多くの中国人の犠牲の上に成り立っていることを忘れてはいけない。戦後80年、そこには満洲国時代の建物が多く残り中国人はそれを壊すことなく利用している。「歴史はものがないと語れない」と言われているので大変ありがたいことである。

建築の分野で一時代を築いた「満洲国の建築」は、人々の記憶から忘れ去

られようとしている。筆者はこのことを少しでも知ってもらいたく、この一文をしたためた次第である。

願わくは、冬は零下20度以下に凍える極寒の地で、工期尋常ならざる現場において活躍した建築技術者や職人のことに思いを馳せていただきたい。

*文中に断りのない写真は2011年11月～17年9月の期間に筆者が撮影（2024年11月21日・公開講演会）

筆者略歴（また・ようじ）

1942年1月満洲国新京特別市に出生。1965年3月福岡建設専門学校建築科卒業。1964年4月清水建設株式会社九州支店入社、設計部構造設計課配属、その後九州支店管内現場および建築技術部勤務。2002年1月定年退職。丸田建築仮設計画事務所設立、現在に至る。

公開講演会記録

東京大空襲を語り継ぐ

—東京大空襲と私の体験

東京大空襲を忘れない実行委員会代表 濱田嘉一



はじめに

1945年3月9～10日に東京下町（現・江東区、墨田区、台東区、中央区）を中心に、米B29爆撃機の空襲で、被災者100万人、死者10万人の被害を被って今年で80年。あの、焼夷弾の降る炎の中を逃げまどい、一命を得た小学校1年だった私も88歳、二度とあの悲劇を繰り返さないよう、あの夜の経験を語り継がなければと、常日頃から感じていた。

昨年、中小企業関係の研究会に参加

した折、御会の井出亜夫会長から、依頼があり、お話しする機会をいただいた。2025年6月5日、国際善隣会館会議室で行ったその内容をまとめたので、報告させていただく。まず私の今日までの歩みを紹介する。

（1）幼・少年期 1937年東京都深川北（現・江東区）に生まれる。生後6か月にして父（美佐夫）召集、39年8月ノモンハンにて戦死。44年深川区立明治国民学校入学。45年3月東京大空襲被災、焼け残りの福住町で、焼け跡の永代で少年期を過ごす。

（2）学ぶ 53年深川区立深川第二中学校卒業。53年東京都立両国高等学校定時制入学、「生き方」を学び57年卒。58年中央大学第二学部入学、「糧の得方」を学び62年卒。

（3）働く 53年東京都中央税務事務所（臨時職員）、56年ジェトロ、62年（資）三島商店に勤務。同年（財）日本中小企業指導センター（現・中小企業基盤整備機構）に就職、97年60歳まで勤務。以降97年～2017年80歳まで、諸中小企業関係法人などに勤務。2017年一般社団法人先端技術産業

戦略推進機構 清算人に。

(4) 現在 2016年妻ががんで旅立って以降、終活として「東京大空襲を忘れない “平和の集い”」などの実行委員会を主宰し、地域の平和運動などに携わる。

東京大空襲とは

先の大戦末期(1945年)米国の空・海・陸軍は、日本各地で、住民殺戮を行った。その規模の大ききから、東京大空襲(3月10日、焼夷弾爆撃、死者10万人以上)、沖縄戦(3月26日～6月23日、艦砲射撃・上陸戦闘、死者20万人以上)、広島空襲(8月6日、原子爆弾投下、死者約16万人)、長崎空襲(8月9日、原爆投下、死者約7万4000人)は、米軍による四大住民虐殺(ホロコースト)と言われている。その手始めが、東京大空襲だった。

東京の空襲

大空襲を含め、東京は1944年11月24日から1945年8月15日の間に106回の空襲を受け、その総てを東京空襲(広義)という場合もあるが、その中でも、被災者100万人、死者10万人以上の被害があった1945年3月10日の下町空襲を「東京大空襲」という場合が多い。

なお、4月13日城北空襲(死者約2500人、焼失家屋約17万戸)、4月15、16日城南空襲(死者4800人、焼失家屋22万戸)、5月24、25日山の手、多摩空襲(死者約3600人、焼失家屋16万戸)を、それぞれ「大」を付している場合がある。当時警視庁が発表した東京全体の被害は、被災者310万人、死者11万5000人以上、負傷者15万人以上となっている。

空襲の経過

東京が受けた最初の空爆は、1942年4月18日米海軍航空母艦の艦載機によるもので、早稲田周辺が被害にあった。その空爆で、早稲田中学の生徒さ

ん1名を含む約50名の方が亡くなっている。なお、この空爆は1941年12月8日の日本海軍による真珠湾攻撃の仕返しとされており、米海軍が42年6月5日のミッドウェー海戦による勝利で、海洋権を握ったと言われる以前、既に日本海軍の防衛線は、破られていた事実をも物語っている。

この空襲から2年半後の1944年11月24日に本格的空襲が始まるまでの間、東京への空襲はまったくなかった。私の記憶では、この2年半の間、夕方7時にラジオから流れる軍艦マーチの音楽にのせた、日本海軍の戦勝報告「本日、日本連合艦隊は、米海軍戦艦〇〇隻を撃沈せり」との放送に、よもや日本海軍が壊滅状態であり、米軍が国土の鼻先まで進軍していることなど、夢にも思わなかった。戦後明らかにされた、この2年半の間、米軍が用意した日本本土空爆作戦の経過を見てみよう。それは、爆撃機(B29)と投下する爆弾(焼夷弾)の開発および飛行場の確保だった。

(1) 爆撃機B29の開発と生産 飛行

高度1万^{フィート}を従来より飛行速度毎時100^{マイル}速い最高速度毎時575^{マイル}、航続飛行距離5000^{マイル}、搭載量2^トの能力を有する戦闘爆撃機で東京サイパン間の距離(2450^{マイル})の往復飛行を可能とし、また速度も日本が誇る零戦を毎時10^{マイル}上回り、1万^{フィート}以上の高度を飛ぶB29に対抗できた高射砲は、43年に約140門が生産されたが、そのほとんどは44年の初期の空襲で破壊されていた。

(2) 焼夷弾の開発 アリゾナの砂漠

地帯に日本の模擬家屋〈長屋〉をつくり、どのような爆薬で、どのように壊滅させるかの実験を繰り返し、焼夷弾を開発した。その正体は、ゼリー状のナフサ(ガソリンに似た石油製品「ナーム」)に浸したウエスを長さ約50^{センチ}、経8^{センチ}ほどの筒状の鉄製容器に詰め、これを36本束ね(クラスター)、投下後、空中で散弾のように分散させ広範囲に落下させる。「点」的攻撃から「面」的攻撃へと変化させた攻撃は、

1投下で36か所への攻撃を可能とした。

(3) 投下された焼夷弾 家屋を直撃、

大火災を呼び、道路に撒かれた焼夷弾は、火を噴きながら転がり、ナフサに浸されたウエスを四方にまき散らし、人々を焼き尽くした。

東京大空襲の実態

米軍側の作戦とその実態を見てみよう。

(1) 目標は下町に点在する軍事工場

その工場は人々が最も多く居住する下町の民家の間に点在する。このため、民家もろとも壊滅させることを目標に作戦が立てられ、爆撃が行われた。この作戦とその実行については、戦後、戦争犯罪として裁かれなければならないとする意見もある。

(2) 3月9～10日 延焼効果の高い

西北の強風に見舞われる関東の気候条件を統計的に把握しており、この夜が

選ばれ、空襲が行われた。

(3) 投入された325機のB29 自

衛武装装置(機関砲や弾薬)を撤去し、1機当たり通常の3倍6^トの焼夷弾を搭載し、全体では、1783^ト、38万1300発もの焼夷弾が1600～2200^{フィート}の超低空から投下された。

(4) エレクトロ照明弾 先行する編

隊が投下、その閃光に囲まれた攻撃区域を後続する編隊が、集中的に焼夷弾を投下、着弾精度の高い爆撃が計画され、実行された。この攻撃を、全体的にみると、下町の一定地域をドーナツ状に爆撃し、巨大な炎のリングとなつて退路を断たれ、中心に集まらざるを得なかった人々に雨の如く焼夷弾が降り注がれ、多くの人々が焼き殺された(12時～14時半の間に10万人以上の人々が殺された)。

被爆地の実態

3月9～10日の深夜に焼夷弾爆撃さ

れた、当時下町と言われた地域は、現在江東区、墨田区、台東区、中央区のほとんどで、周辺の江戸川区、荒川区、千代田区、文京区、港区なども類焼被害を受けているが、ここでは、直接爆撃された下町現4区の実態を見てみよう。

(1) 消防活動を強制した防空法など何の役にも立たず、強い北西の風にあおられ想像を絶する大火災となった。至るところで巨大な火災旋風となり、主な通りは「火の粉の川」となり、逃げ場を失った人々に焼夷弾が注がれ、人々が生きながらにして焼き殺された。

(2) コンクリート 燃えないはずと信じて、コンクリート作りの学校や官公庁などへ避難した人々もいたが、その約70%が焼け落ち、運命をともしってしまった。あるいは建物は焼け残ったが、その建物の中に入らず、扉の外で多くの人々が焼かれた。

(3) 深川の縦横に走っている運河

焼夷弾のガソリンが川面に流れ、運河も火の川と化し、熱さに耐えられず、水を求め、川に飛び込んだ人々をも焼き殺した。10日の朝、生き残った消防団員が鳶口で川から、死体を収容する作業が、あちこちの川岸で見られた。それでも、川面一面の死体の下を川が流れていた堀割りがあったと伝えられている(村岡信明『赤い涙』)。

(4) B29の爆音が消えると同時 陸軍がトラックで死体の収容を開始、主な道路、建物内の死者を猿江恩賜公園、錦糸公園(江東区)、墨田公園(墨田区)、上野恩賜公園(台東区)などの空き地に仮埋葬した。

ただし、河川での死者の多くは、流されたままで、今でも東京湾の水底、あるいはビッグサイトなどの埋立地の下に眠っている。私が小5の夏、東京湾の「夢の島(駐留軍の保養地)」へ学校行事で、潮干狩りに行った。友が蛤と間違え、頭蓋骨を水から上げたことを覚えている。

私の体験

母が平野町2丁目の町会事務所を任されていた関係で、その2階ヘトラックガレージの階上」が住まいで、小さな庭が南側にあった。その庭に3月9日の23時55分(わが家の時計)、焼夷弾が着弾、火が噴いた。

(1) 私の東京大空襲はここから始まった
母がバケツで水をかけていたが、消えるはずがない。階下の町会事務所に詰めていた消防団員からの「濱田さん、もうダメだ、逃げなさい!」という叫びに促され、母は、バケツに住民台帳を詰め、私は父の写真などを小さなリュックに入れ、母と当日わが家に泊っていた祖母(母の母)、従姉妹二人の5人で、家を飛び出し、まだ、爆撃されていない西方600㍎ほどの清澄庭園の黒々とした森を目指した。

(2) 300㍎も行かないうちに 爆音とともに焼夷弾が雨のように降って

きた。幸いなことに眼の前に浄心寺の防空壕が口をあけていた。5人揃って中に入れてもらえたが、最後に飛び込んだ私の後ろに焼夷弾が転がりこんできた。けれども強い西風にあおられて火は、今飛び込んだ東の口（外）に向かって噴出していった。慌てて西の出口から這い出し、道路に出たが、従姉妹二人の姿がない。母が叫んだ「清澄庭園に逃げるんだよ！ 清澄庭園だよ！」と。

（3）清澄庭園までは300メートルほど

60歳の祖母も懸命に走った。幅40メートルの清州橋通りを渡り、庭園の塀までたどり着いたが、高さ2メートルのコンクリート塀は、どうにもならない。母が汲み取りさんが入る90センチほどの通路を見つけ、3人はもぐり込んだ。と、同時に爆音、見上げると空一面にゆらゆら揺れる火のお札のような焼夷弾が再び降った。シュル・シュル・シュル、ターン・ターン。焼夷弾の風を切る音、コンクリートの地面に当たる音。そして人々の絶叫、火を浴びて、燃えながら走る人、背中が燃え踊り狂う人、幼少時に見た菩提寺「深川ゑんま

堂」の地獄絵そのものが目の前に展開されている。祖母が耳元でささやく。「ヨシカズ、次はお前の番だよ。お題目を上げなさい」。三人で唱える「南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経」……。

（4）隣家の主人「ここも危ないから、私どもも庭園内に入ります。先に入って下さい」と、梯子を掛けて下さった。

庭園内に入り、池の端に座る。空は真赤に染まり、ひっきりなしに火の粉が降る。住民台帳を入れたバケツが役に立つ、台帳を僕に預け、母は膝まで、水につかり、そのバケツで私たちや付近に座っている人にも水をかける。熱い！ 北西の空が一段と明るくなり、火の粉が大量に舞う、母が叫ぶ「学校が燃える！」（清澄庭園入り口の前に建つ深川家政高等女学校が母の母校）。中村高等女学校とともに焼け落ちる。火の粉が天をつく、この瞬間を目の当たりにした。

（5）爆音が止み火の粉も次第に収束

濡れたはずの上着が乾いていたほどの熱さだった。突然母が叫ぶ「美代子、

康枝」と。浄心寺の防空壕を出た折、迷子にしてしまった姪たちの名を呼んだ。自身の無事の確認と同時に、無事でいてほしいとの思いが込み上げてきた様子で、池の対岸にちらりと見える「赤い布団」を被った二人連れを見つめて、「生きていてくれよ美代子」とつぶやいていたことを覚えている。

（6）真っ赤な太陽 東の空に昇ってきた。煙による涙目は、太陽が泣いているようにも見えた。

（7）清澄庭園 避難施設ではない避難場所といわれていた。「明治国民学校」が、焼けていないので避難するようになると言われ、毎日通っている学校に向かった。出口で、母から「道に焼けばっくりがあったら、絶対に踏まないように」と注意された。関東大震災を経験した母ならではの、一言であった。

焼死体は、既に軍によりトラックで運ばれた後で、ただ、灰塵と化した家々の痕跡（焼け跡）が清州橋通りを挟んで続いていた。

(8) 明治国民学校の校庭 テントで囲まれた黒い塊が山のように積まれていた。数時間前、ここで展開された悲惨なホロコーストの犠牲者たちであった(その実態は後掲)。

(9) 明治国民学校の講堂 早めに避難した人々と清澄庭園から誘導されてきた人々でごった返していた。その中には、はぐれた従姉妹二人とその母(母の兄嫁)と娘一人の4人がいた。母は安堵感で、その場に座り込んでしまったことを覚えている。はぐれた従姉妹は、浄心寺の防空壕を出たところで人の波に飲まれ、押し流されていたが、母の「清澄庭園」という声が聞こえたので、何が何でも清澄庭園を目指し、裏門から入園したとのこと。その途中、女の子二人では危険だから、と赤い掛け布団を掛けてくれた親切な人がいて、それを被って逃げ込んだとのこと。母が対岸から見た赤い掛け布団の主は、従姉妹たちだった。ただ、兄嫁と一緒のはずの母の父(祖父)と母の兄(伯父)の姿がない。焼夷弾が自宅に落ち

たとき、バラバラに逃げたので、その行方はわからないという(伯父の死体は3日後に八幡宮の裏の「油堀川」で母が見つけ、兄嫁と二人で、浄心寺の境内で荼毘に付し、菩提寺に納骨した。祖父は、いまだに見つかっていない)。

(10) 講堂 次々と避難する被災者で溢れ、立っている隙間もない。駐屯している軍隊から、「福住町、佐賀町は燃えていない。縁故のある者は、即時退去せよ」とのお触れが出され、父の実家(父は1939年に戦死、祖母と叔母、その娘の従姉妹が住む)のある福住町に向かう。

(11) 途中の黒亀橋 橋上に、焼けただれた消防車が1台放置され、その後方に消防士と思われる6体の焼死体が積まれていた。まだ川面には数体の遺体が流されており、空襲直後の様子と変わらない情景が忘れられない。

(12) 永代の母の実家 蔵が焼夷弾の直撃を受け、母屋にいた家族は外へ逃

げた。叔母と娘は、明治国民学校に向かい、伯父は、恐らく、祖母と娘二人がいる平野町のわが家を目指したのではないかと思われる(「油堀川」の川沿いから、平野町は近い)。祖父は代々の家から離れず、家の脇で倒れていた。死体は軍のトラックに積まれたという証言があった。

(13) 福住町の父の実家 母方の実家から100mとは離れていないが、爆撃を免れた。父方の祖母と叔母・娘(従姉妹)3人と無事を喜びあった。焼夷弾爆撃を免れたのだから、恐らく、そのまま家においても無事だったと思われるが、周囲は火の海、逃げずにはいられなかったという。暗い方へ、暗い方へと逃げ、永代橋のたもと公園で身を寄せ合っていた(家は焼け残ったが、一家全滅という家族もあった)。

(14) 母は町会事務所を任せられる 焼け跡の孤島のような福住町で、8月15日までその任に当たり、出入りの激しい住民の移動、その登録や少ない配

給ものの手配など、酷悪な生活環境の中で、何とか頑張っていた。

戦後処理

大空襲の後始末は、10万体に及ぶ遺体の埋葬が行われたものの、沖縄、広島、長崎のように国を挙げての慰霊事業や祈念館の設置はなく、保障や戦争犯罪に至っては、この80年間まったく顧みられていない状況が続いている。



ここまで逃げた親子の姿

(1) 埋葬 猿江恩賜公園、東陽町交差点北東角（江東区）、錦糸公園、墨田公園（墨田区）、上野恩賜公園（台東区）などの公的空き地に仮埋葬されていた約10万体の遺体は、東京都の失業対策事業（「注」参照）として1948年掘り起こしが始まり、3年間かけて、洗浄し、火葬などの処理が施され、震災記念堂（墨田区）に安置された。1951年、同堂は名称を東京都慰霊堂に変更されている。なお、この



集められた焼死体

とき確認された頭蓋骨の数8万1147をもって、東京大空襲死者と公的には言われている場合が多い（この他に共同墓地に埋葬されなかった遺体、川に流され東京湾の水底に眠っている遺体を勘案すれば、優に10万體は超えている）。

注：1日の賃金254円、「ニコヨン」と呼ばれた日雇い労働者で、この任に就いた人たちは主として戦地からの引き上げ日本兵で戦地での経



どこまでも続く焼け野原

験を生かし遺骨処理に当たったと言われている（中国、東南アジアなどから100万人を超える復員兵の対策事業で、まだ復興されない国内産業では、雇用の機会がほとんどなかった）。

（2）慰霊 沖縄、広島、長崎の犠牲者に対する慰霊は、国家的規模で行われているが、東京大空襲犠牲者の慰霊は、東京都が「慰霊の日」と定めたことに止まり、その記録を残す資料館も、民間有志が資金を拠出して設立された「東京大空襲・戦災資料センター」が江東区に存在するのみ。一日も早く公的な「東京都平和祈念館」が建設されることを願わずにはいられない。現在、筆者は「東京都平和祈念館（仮称）建設をすすめる会」への協力、「東京都平和祈念館（仮称）建設の具体化を求める緊急アピールへの賛同署名の呼びかけ人」として活動している。

（3）保障 2007年3月9日「東京空襲犠牲者遺族会」の被災者、

犠牲者の遺族112人は、日本政府に対し、謝罪および総額12億3200万円の損害賠償を求めて、東京地方裁判所に集団提訴を行ったが、2013年5月9日最高裁は原告側の上告を破棄、全面敗訴が確定した。しかし、この間2011年に超党派議員連盟「空襲被害者等援護法を実現する議員連盟」が設立され、2016年4月初めて「救済法案の素案」が作られたが、未だに法案には至っていない。国会内では、超党派議員連盟「空襲議連」が、全国的には「全国空襲被害者連絡協議会」が精力的に活動を続けている。

（4）戦争犯罪 東京大空襲は、第1次世界大戦後の1922年、ハーグ空軍規則で禁止されていた、軍事目標以外の民間人の殺傷を目的とした空襲であって、決して許されない戦争犯罪であるとの見解は無視され、2007年の東京大空襲訴訟（前掲）でも戦争犯罪が問われたが、日本の司法当局は取り上げなかった。また2013年5月に第2次安倍内閣は、東京大空襲につ

いて「国際法の根底にある基本思想である人道主義には合致しない」とする一方「当時の国際法に違反して行われたとは言い切れない」との答弁書を閣議決定し、米国への直接的な批判は事実上避けている。

なお、大空襲の無差別爆撃を指揮したカーチス・ルメイ空軍司令は「朝鮮戦争」「ベトナム戦争」の米空軍を指揮し、キューバ危機では、キューバのミサイル基地への爆撃を呼びかけ、ベトナム戦争でも、持続的な北ベトナム爆撃キャンペーンを行っている。このルメイ指令官に第1次佐藤内閣は、1964年12月「日本の航空自衛隊育成の功」を理由に勲一等旭日大綬章を入間基地で授与している。

講演は、ここで終了したが、「焼け残った街の記憶」を加えさせていた。大空襲の焼跡に残された陰の部分とご理解いただきたい。

焼け残った街での記憶

ウェブサイトで、東京大空襲で焼け

残った街を調べると、向島区（現・墨田区）京島が表示されているが、私が戦後を生きた深川区（現・江東区）の福住町、佐賀町の表示は見当たらない。空襲後の終戦前後、あんなに活気があって、活き活きとした焼け残りの街が、現在では人々から忘れられてしまっている。そんな思いから、追加させてもらった。現状は、双方の街を合わせても人口5000人程度であるが、大空襲後の焼け残りの町では、恐らく1万人以上の人々が、8月15日までは再度の空襲を恐れながら、8月15日以降は、食べることに事欠きながら、必至で生き抜いた記憶だ。

（1）住宅難と食糧難 避難した父の実家は借家であったため、すぐに追い出され（大屋宅が焼失・避難）新たな住まいには、母方の家族合わせて10人が6畳一間での借家生活、子どもたちは、押し入れが寝床の状態。

（2）食べ物 福住、佐賀町は、倉庫に囲まれた運河沿いの街。半焼の倉庫

から失敬した「焼け米」で、何とか食いつないだが、梅雨を迎え、腐敗。配給の少しの米、麦、ときには、ふすま粉や雷魚まで、焼跡の雑草、運河で釣るハゼなど、食べられるものは、何でも口にした。8月15日終戦、町会事務所が閉鎖、失職した母は「ヤミ屋」に転職。新たに迎えた夫を用心棒（？）に、町内の食の確保に東奔西走していた終戦混乱期の母の姿が忘れられない。

（3）明治国民小学校 焼けなかったが休校。空襲時1年生を担当されていた大竹てる先生が、通っていた学校に係なく小学生10人ほどを集め、佐賀町の船会社の2階で、5月から寺子屋方式の授業を開始。教材は、低学年がマンガ「ふくちゃん」「のらくろ」で、高学年が「西遊記」だったと記憶している。

（4）明治小学校 9月1日に開校した。初日の授業はなく翌日から使う教室の掃除だった。裸足でパンツ1枚での清掃、5分程度経ったところで、足から腹、背中が猛烈に痒い。ゴマを蒔いたように、

黒い点々・蚤（シロ）が這い上り、血を吸っていた。軍隊帰りの先生曰く「蚤も腹をすかせているんだ、我慢せい！」と、生徒たちは「俺たちも蚤になりてえ」。

（5）講堂の出入り口のコンクリート床に残る黒い油染みは、あの3月10日に講堂の中に入らず、ここで焼かれた人々の痕跡。月に1度回ってくる掃除当番では、クレンザーに浸したデッキブラシで磨いたが、5年後の卒業まで、その墨痕は消えなかった。

（2025年6月5日・公開討論会）

筆者略歴（はまだ・よしかず）

1937年東京深川（現・江東区）生まれ。53年東京都中央税務事務所（臨時職員）、56年ジェトロ、62年中小企業指導センター（現・中小企業基盤整備機構）に就職。2018年から『赤い涙』頒布を開始、併せて「東京大空襲を忘れない実行委員会」を立ち上げ（代表）。現在、三多摩初の「9条の碑」をつくる会の共同代表も務める。

「花岡事件」

80周年慰霊祭への参加

国際善隣協会会長 井出亜夫

2025年7月1日、秋田県大館市信正寺で開催された「花岡事件80周年慰霊祭」に参加して参りました。

「花岡事件」とは、1942年に日本政府が閣議決定し、4万人の中国人労働者を日本に移入し、全国135の事業所に分配し働かせた結果による、慙愧すべき事件です。試験移入を試みた上で、1944年8月より1年間軍需産業地で労働を強いたが、劣悪な労働環境で6830人もの死亡者を出しました。

生き残った人々は戦後、米軍が用意した船で1945年12月の段階で本国に帰国しました。

この事件の実態解明に尽力された当

協会石飛仁会員をはじめとする関係者の皆様の対応に敬意を表する一方、過去、現在、未来への展望を旨とする国際善隣協会としても認識の一端としたいものです。

金子博文さん（実行委員会幹部）、会員の山口直樹さん、同じく飯塚靖さんや学術論文のある張宏波さん（明治学院大学教授）や石田隆至さんが同行されたこともご報告いたします。

今回の慰霊祭のスケジュールは次のようなものでしたが、まず慰霊祭実行委員会石飛仁代表の挨拶を掲載いたします。

長らく隠されてきた「中山寮―花岡事件」の真相をしっかりとつかんだ上でこそ、日中不再戦友好の原点としての信正寺慰霊祭は意義を全うするの思いで、今日まで毎年7月1日花岡事件信正寺慰霊祭を実施して参りました。

本日ここにいらっしやいます信正寺^{つたや}葛谷住職様はじめ、事件発生時以来、3世代にわたり、「怨親平等」^{おんしんびやうどう}の回向



写真① 信正寺本堂前にて当会からの参加者（左から飯塚、井出、石飛、山口）

を捧げていただきましたことに深く感謝するとともに、80周年「7月1日花岡事件」信正寺慰霊祭を関係者・賛同者集いまして挙行できますこと、感激のうちに、合掌申し上げます。

7月1日 信正寺本堂にて

「花岡事件」80周年 信正寺慰霊祭
実行委員会代表・石飛仁



写真② 信正寺本堂に掲げた横断幕

慰霊祭スケジュール

7月1日(火)

信正寺本堂にて、1972年10月の日中国交正常化以前に民間宗教団体などの手により、全国に散乱していた犠牲者(華人劳工)の遺骨2400余りが9次にわたって中国に送還されていたが、その遺骨の法要を終えた遺骨写真2400余りを、今回、本堂内壁面に80周年記念として「七月一日花岡事件慰霊式」と書かれた幕とともに展示した(写真②)。

15時 慰霊祭開始。慰霊祭実行委員会石飛代表の挨拶。
15時20分 信正寺住職蔦谷達徳師による読経。
15時50分 信正寺蔦谷二代目(前住職、現崇福寺住職)達道師のお話。
16時 信正寺の集会室で、きりたんぼ鍋(秋田名物)を食し、石飛

の話、金子博文、井出、張兆梅・張兆蓮(ご遺族)、連続参加の張碧華、山口直樹らの挨拶(敬称略)。
16時10分 信正寺裏の中国人殉難者供養塔前で墓前祭。参加者全員による献花(写真③)。その後、旧鹿島組による供養塔建立と告示板設置の経緯などについて石飛の説明。
16時45分 信正寺境内にある七ツ館中



写真③ 信正寺境内にある中国人殉難者慰霊碑の前で行った墓前祭



写真④ 信正寺前の花岡川の中州で419人の中国人殉難者の名前を書き入れた紙コップにローソクを灯し、灯明供養を行う

魂碑（落盤事故の死没者）と友子碑を前に、石飛が事件発生 of 複雑な背景を説明（雨が降りだす）。

19時 信正寺前の花岡川中州で419人の名前を記した灯明供養（19時30分まで）（写真④）。

7月2日（水）

9時30分 「花岡事件」関係場所のフィールドワーク（石飛の解説）。

花岡川切替工事跡地（落盤事故により花岡川の水路変更工事に中国人が従事）。

10時 中山寮跡地（現在の滝ノ沢沈殿池。花岡鉦山のスラグや廃棄土砂などで埋まり、草木が繁茂）。連行された中国人の収容飯場（「中山寮」）は地面の下。

10時40分 鉦山鉄道花岡駅跡地、旧花岡鉦山病院跡地、旧共楽館（現在の花岡町体育館。逮捕された中国人が捕縛されたまま共楽館前広場に3日間留置）、大館警察署花岡派出所（特高警察官の詰所）。

11時40分 獅子ヶ森（歌諄大隊長をリーダーとする「華人劳工」が逃げ込み鎮圧隊と肉弾戦を行う）。

「花岡事件」とはどのような歴史か

極秘のうちに処理されていた「花岡事件」は、19

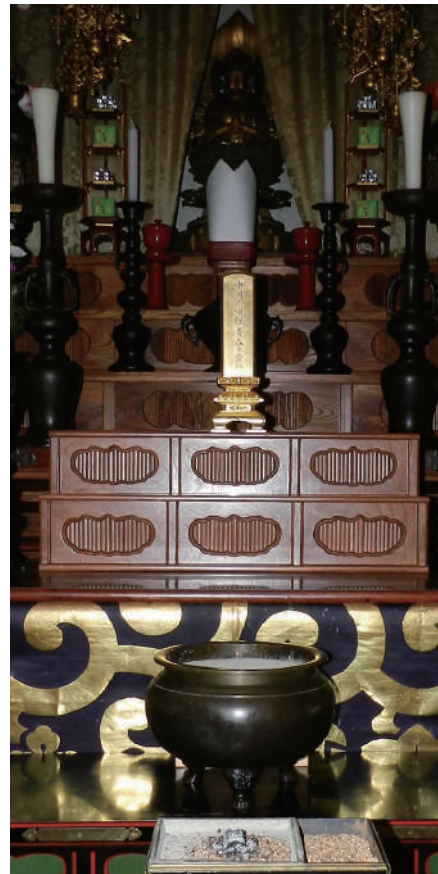
45年7月1日秋田花岡鉦山鹿島組の「中山寮」で5人の補導員を殺害し、803人が逃走し、鎮圧隊のべ2万人が包囲する肉弾戦ののち、多数の死者を出した暴動事件だったが、1945年11月の段階で米軍が事実の一端を知り、関係者が逮捕収監され、BC級横浜軍事裁判にかけられた。

1948年3月1日に判決が出て、「花岡事件は終了」したが、4万人の中国人労働者の戦後処理は、激動する国際政治情勢下、日本政府の清算事業は行われぬまま推移した。

内戦を経た中国が北京に新政府を誕生させるころになると、日本全国に散らばっていた犠牲者の遺骨が問題となり、400余の犠牲者を出していた花岡事件跡地などから残骨が掘りだされ、民間調査によって遺骨が集められ、赤十字社を通して中国に遺骨の送還運動が起き、9次にわたって行われた。

1972年9月29日 日中の国交正常化。

1978年8月12日 日中平和友好条約が成立。



写真⑤ 信正寺祭壇の位牌「中国人殉難者各々霊位」

より延退する間、生き証人は高齢死亡する事態となった。

何とか

石飛がこの事実を知ったのは1971年のことで、月刊『潮』1972年5月号などで日中戦争の全容を解明する編集部と連続発表していたのは、日中国交正常化の直前であった。

1984年2月17日 石飛は花岡事件生存者（取材時に知り合った）の意を受けて鹿島建設と平和慰霊事業交渉に入った。

1991年6月12日 紆余曲折のはて石飛の平和慰霊交渉は原則合意に達した。しかし、これに賛同できないとする戦争賠償を求める運動が起き、平和慰霊交渉を戦争賠償にシフトさせようとする民事裁判を起こした。

これが受理されたため、石飛の平和慰霊交渉は一時止まった。民事裁判に

石飛と鹿島との原則合意を生かそうとする取り組みを続けるなか、裁判所からの斡旋という形で鹿島から5億円が中国紅十字会に振り込まれ、「花岡平和友好基金」方式により和解が成立した。

その後、花岡事件の事実を追跡した石飛が天津の日中友好平和祈念堂建設事業を実現させていくプロセスを、資料を駆使して詳細に語り、80周年花岡事件慰霊事業を現地の信正寺関係者の協賛を得て実施していく。

「石飛にプロフィール」

1942年8月生まれ。島根県雲南市三刀屋町出身。1965年駒澤大学文学部卒。

1968年「現代人劇場」結成。新劇人反戦青年委員会代表。

1971年ルポライター、翌年より光文社『女性自身』シリーズ人間班専属記者（30年間）に。1984年「事実の劇場」を結成し、戦時下花岡事件人道問題に取組む。2002年より国際善隣協会会員。アリの街実行委員。

主な著作：『中国人強制連行の記録』太平出版社（1973）、『風の使者・ゼノ神父』講談社（1982）、『夢の砂漠』佐川出版（1983）、『ドキュメント悪魔の証明』経林書房（1987）、『花岡事件』現代書館（1996）、『中国人強制連行の記録（改訂版）』三一新書（1997）、『魂の教育』東林出版（1998）、『風の使者ゼノ（再販）』自然食通信社（1998）、『甦れ古代出雲よ』新泉社（2005）、『花岡事件「鹿島交渉」の軌跡』彩流社（2010）、『花岡事件「秋田裁判記録」』彩流社（2010）、『ポーランドから来た風の使者ゼノ』聖母の騎士社（2023）、その他多数。

陶陶俳壇

句会
陶陶結果
2025年6月

兼題 「草いきれ」

馬場由紀子

風薫る山門の朱に青紅葉

棕櫚

◎えつこ 爽やかで色彩がきれいです。涼やかな風が肌をなでる感触まで伝わってきます。

◎二三四 色の対比が鮮やか。季語は上五「風薫る」が主と考えてよかったです。

◎紅杓 京都のお寺でこのような景色を見ました。

●由紀子 「紅葉」は葉が色づく現象を言うので敢えて季重なりでも「青楓」「若楓」とした方がいかもしません。

平安に涼運びをり水室郷

〃

◎紅杓 水や雪を貯蔵することで冷温貯蔵庫として古代より世界各地で利用されてきた蓄熱施設である。日本においても洞窟や地面に掘った穴にかやぶきの小屋で覆い保存したといわれる。長らく朝廷や将軍家など一部の権力者のものであった。『枕草子』にも平安時代の人々が盆地であり蒸し暑い京都の夏に「削り氷」をたしなむ記載があるらしい。歴史を思い起される句である。

妣と立つ休耕田の草いきれ 松島二三四

◎明良 休耕田補助を受けて放つたので草だらけですね。「父問題は政治家も右往左往です」。

◎由紀子 亡き母が汗して働いた田んぼなのであろう。その田も母と共に消えてしまつて、今は草が生い茂るばかりである。そこから「草熱れ」が立ちこめている。まるで、往日の母の活力が放出されるかのよう。

◎紅杓 諸々のことを思い出しているのだろう。

ママチャリにたなびくヒジャブ薄暑光
〇正子 薄暑の光の中、颯爽と駆け抜けるヒジャブ

の女性が鮮明に感じられます。

◎えつこ 意外な取り合わせが面白い。

◎棕櫚 ヒジャブとママチャリという二見、異質な素材が一つの画面に収まっているところに、面白みを感じました。

◎由紀子 ママが忙しいのは万国共通。

さつき晴れ輝きそよぐ椎若葉 橋本紅杓

◎正子 生命力溢れる椎の若葉、今年も元気の出る季節が巡ってきた。

ラフ入りの白球拾う草いきれ
◎由紀子 白球はゴルフボールでしょうか。「草いきれ」の季語が落胆と悔しさを表しています。

走馬灯反省の期がまた来たり 瀬崎明良

◎由紀子 戦争においては敗者も勝者も罪を負うことになる。そのことを忘れてはいけなのではないでしょうか。

猫じゃらし喜びしチャトは雲の上
◎棕櫚 いまは雲の上に行つてしまったチャトの好きだったものを見て、ともに過ごした日々を思い出した作者の情感が風景とともに伝わってきました。

口笛や木霊で返す八哥鳥 日野正子

◎明良 公園でよく見る椋鳥は人も恐れず気ままに飛び回っていますが、海外の公園でもよく見かけるので愛嬌のある鳥ですね。

◎紅杓 我が家に訪れた鶯に口笛を吹いてみたら鳴き返してくれた。この方の八哥鳥も返歌してくれただけか。

◎棕櫚 作者は山登りをしながら口笛を吹いたのでしょうか。聞こえてきた木霊は、八哥鳥の返事なのかもしれない。そんな空想を楽しみながら自然の中を歩いている風景が浮かびました。

草いきれ行き交う人無し寺の道
◎明良 参詣者の少ない寺の参道でしょうか雑草も茂っているようですね。

◎えつこ 草とりをしてあげたくなるようなところがありますね。夏の日差しも感じます。

◎棕櫚

草木もののびのび生い茂る季節。自然に囲まれ街の喧騒から離れた場所にあるお寺の雰囲気は伝わってきて、まるで参道を歩いているような気持ちになりました。

野良着干すわずかに残る草いきれ やまやえつこ

◎二三四 暑さと草いきれの中での農作業。洗ったあとも草の匂い残り、野良仕事の厳しさを思わせます。「瞬」わずかに、ではなく大いに残るのでは？」と思ったのですが、「干す」なので洗って干したのだと納得。

◎正子 いきいきとした姿が想像できます。

◎紅杓 多いに励まれたのだろう。

放課後は球拾いだね草いきれ

◎京 とても実感がこもっている。

◎明良 懐かしいクラブ活動ですが球拾いの役も楽ではなかったでしょう。

◎紅杓 休み時間に遊んでいたボールが草むらに飛んで行つてしまった。ボール拾いは放課後にしよつと相談しているのかな。

膝痛の話あれこれ金玉糖 馬場由紀子

◎二三四 金玉糖とはまた懐かしい。冷たいお菓子でもないのに涼やかですね。馴染みのお茶菓子をつまみながら気の置けない仲間とおしゃべり、話題はもっぱら膝痛というの「中高年あるある」ですが、金玉糖のおかげで深刻にならずにすんでいます。

◎えつこ 昔おばあちゃんが食べてました。

低く飛ぶ蝶の行方や走り梅雨

◎棕櫚 雨の中、低く飛んでいる蝶という絵柄に、幻想的な印象を受けました。

◎二三四 梅雨に入りたての雨の中、蝶が止まる場所を求めてさまよっている、と読みました。上五の表現が走り梅雨とも合っています。

◎正堂 気温高き日の梅雨原を蝶の飛ぶ様を見つめる。

*旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

中国

ウエッチング

編・訳 上松玲子

健康証明書の偽造撲滅へ

健康証明書は、就業者の健康状態を証明し、疾病の伝染を防ぐための法的文書だ。公衆衛生の安全と基準が確実に守られるためには極めて重要なものである。中国の「食品安全法」「公共衛生管理条例」などの法令では、食品に直接触れる食品生産・取扱従事者および公共の場所で接客を行う仕事に就く者などは、就業時には「健康合格証」を所持すること、定期的に健康診断を受け、証書を更新しな

ければならないことが明確に規定されている。

しかし、しばしば偽造事件が起きる。中には、直接健康診断を受けなくても、80元から2000円で偽造健康合格証が購入できる場合もある。中には、オンライン診断により健康合格証が発行できると言う業者もある。だが、その証書番号を北京市健康合格証検索システムに入力しても答えは「該当なし」だ。

「健康合格証は、消費者を感染症から守る砦であり、就業者が仕事に就くための「健康パス」でもある」と、北京中医药大学保健医療法務研究・イノベーションセンターの鄧勇センター長は述べ、健康合格証の偽造は、公衆衛生への脅威となり、業界の信用失墜につながると指摘する。

鄧勇氏は抜け穴をいかに塞ぐかについて、関係部門が監督と処罰を強化し、偽造に関

与した医療機関に対して二重の捜査を実施するとともに、仲介業者への量刑、経済罰を引き上げ、使用者をブラックリストへ掲載し、就業資格を制限するべきだと提言した。さらに証明書のコードをスキャンすれば、情報や手続き記録がわかるような、全国統一の管理システムを構築し、同時に監視と異常検知を行うことも提言している。

中国政法大学医療法研究センター所長の劉鑫氏も、チップの埋め込みや検証システム実現など、健康合格証の管理も時代に合わせて進化させるべきだという認識を示した。

『工人日報』2025年6月7日

35歳の壁

近年、就職における「35歳の壁」撤廃を求める声の高まりを受けて、現在、一部の企業では「年齢の高い求職者の経験と能力をより重視する」

として、採用における年齢制限の緩和が始まっている。同時に、今年、多くの省で公務員採用試験の一部職種の年齢要件が40歳以下になったほか、山東省、新疆ウイグル自治区、貴州省などの公共機関の採用公告でも一部職種の年齢制限が45歳以下になった。

中央財經大学人力資本・労働経済研究センターが発表した「中国人力資本報告2024」によると、全国の労働人口の平均年齢は1985年の32・25歳から2022年の39・72歳に上昇した。職場における40歳は「高齢」ではなく、活力と意欲に満ちた年齢だ。職務経験がものをいう業界や職種では、年齢制限の引き上げは人材の有効活用につながる。35歳ルールを段階的に撤廃することは、あらゆる年齢層の人材を最大限に活用することや人手不足への対処に役立つだろう。

しかし、これは職場における年齢差別の完全撤廃に向けた小さな一歩にすぎない。一般的には若い人の方が仕事の効率もよいと考えられており、年齢の高い人の雇用は、人件費がかさむことと合わせ、企業が多くがより若い人を採用する理由となっている。

2024年9月に発表され、平等な雇用に影響を与える不当な制限や雇用差別の排除を明確に規定した「質の高い完全雇用促進のための雇用優先戦略の実施に関する中国共産党中央と国務院の意見」に基づき、今後は職場における年齢差別の禁止事項を立法レベルでどう規定するか、差別認定基準や処罰措置をどう設定するかが課題となる。

『澎湃新聞』2025年6月9日

動画が教えてくれたもの

広西チワン族自治区桂林市内で、ある大学統一試験受験生

が試験終了後荷物を天秤棒で担いで慌ただしく試験場を立ち去る姿を映した動画に多くの人が心を揺さぶられた。彼女は質素な服装ながら自立した賢い女性である雰囲気をもっていた。この動画は多くのメディアで再共有され、「これこそ庶民の大学入試。チャイナ服や花に惑わされないで」というコメントが多くの支持を得た。まさに本人にとっても驚きだっただろう。花束も拍手もなく、重い荷物を担ぎ大股で去っていく彼女の姿が、なぜ数え切れないほどの人の心を打ったのか。それは、彼女の姿に、かつての「私たち」を見たからだろう。

昔は今ほどインターネットも発達しておらず、カメラも普及していなかった。チャイナ服も花束も、儀式的な雰囲気もなかった。農村から試験会場のある都会へ向かい、試験が終わると、故郷に戻った。

背筋をぴんと伸ばし、高校3年間頑張った思い出が詰まった荷物をかついで。当時は服装も質素で、皆同じようなビニールシート素材のバッグを持っていた。そうした人々がこの賢い少女に感動し、体一つで頑張っていたころを思い出したのである。

『揚子晩報』2025年6月12日

民族衣装で証明写真

最近、深圳市の男性がSNSに漢服を着た身分証明書用の写真を投稿した。空色の着物襟の漢服に白の内襟、髪型も古代風の髻にまとめていた。写真が「漢服を着た身分証明書用の写真が撮れてとても嬉しい。今後20年はこれが私の姿ということだ」ということばとともに投稿されると、多くの注目を集め、真似をする人が続出した。

戸籍を管理する深圳市公安局戸政大庁の職員によると、

身分証明書用の写真を漢服着用で撮る場合は、当局に登録した写真スタジオで撮影し、スタジオ側が関連システムを通じて写真をアップロードし、審査に合格すれば使用可能だという。

北京市朝陽区のある派出所の戸籍担当警察官は取材に応え、漢服着用は規則で禁止されてはいないが、審査が通りにくいかもしれないと語った。まず服装について。淡い色の服や襟の高いものは許可されていない。漢服の多くは絹で、写真撮影時に大きな反射点ができやすく、その場合審査に通らない。次に髪型について、高い位置で結んだ髻、三つ編みなどは許可されず、髪飾りも着用できない。したがって証明写真を撮るときに漢服を着るのは勧められないというのだ。

『新京報』2025年6月18日



◆令和7年度第4回理事会の議題（7月25日開催）

主な内容は次のとおりである。
9月に開催される長寿祝賀会、講演会における非会員からの資料代徴収、各常任委員会の進めている事業内容、若手委員の減少等々について、審議・意見交換を行った。

（事務局長 竹前栄男）

会員だより

◎新会員

〈協力会員〉 山田哲司氏

同好会だより

〈陶陶句会〉 馬場由紀子先生

毎月第2水曜日午後1時から、オンライン（ズーム）で俳句会を開催しています。未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡く

ださい。

〈陶謡会〉 松木千俊先生

メンバー募集中（現在休会中）です。未経験者も大歓迎です。興味のある方は事務局までご連絡ください（一人ずつ個人指導のお稽古もあります）。

へ二石会

毎月第2土曜日午前11時から、7階談話室にて開催。参加希望者は、開催日前々日（木曜日）までにメールで幹事（瀬崎明 aseken2000@gmail.com）までご連絡ください。

原稿・写真など大募集！

○「みんなの写真館」短いコメントも付けて下さい。思い出の写真、めずらしい写真、お孫さん自慢、なんでもお待ちしております。

旅行記・体験記・書評など多様な投稿も大歓迎です。

みんなの写真館

北京大学 博雅塔（表紙）

今年の7月、5年ぶりに母校の北京大学を訪れました。中国の大学の中で、最も美しいキャンパスと言え、北京大学と自負しています。キャンパスの何が一番心に残ったかと言え、北京大学のシンボル、博雅塔^{ほくがとう}です。

博雅塔は、1924年に建設されました。当初は、給水塔として実用的な機能を備えていました。時代が進むにつれて、給水塔としての役目は終わりましたが、建物自体はその美しさと歴史性から保存され、キャンパスの「精神的な灯台」となりました。

博雅塔は、伝統的な中国建築と西洋の建築様式が融合した独特のデザインが特徴です。高さは約37m、13層の八角形構造で、外壁は赤いレンガと白い石材が巧みに組み合わせられています。

塔の設計は、アメリカ人建築家の亨利（ヘンリー）・マーフィー（Henry Murphy）によるもので、伝統的な中国の塔建築にインスピレーションを受けつつも、西洋の合理的な構造設計やモダンな意匠が随所に見られます。特に夜間には照明がともされ、池に映る塔の姿は「燕園八景」の一つとして多くの人々に愛されています。

博雅塔は、北京大学における「博学」と「雅量」、すなわち幅広い知識と高い品格を象徴しています。学生や研究者が知的探求と人格形成を両立する理想像を体現しています。

燕園の静かな池に映る博雅塔の姿は、学び舎での日々を彩る永遠のランドマークとして、これからも輝き続けます。

（姜晋如）

2025年9月の行事予定

- 4日（木） 14：00 公開 第12回 対面&オンライン講演会
「戦略的パートナー 日本とモンゴル」
清水武則氏（日本モンゴル友好協会理事長）
- 9日（火） 14：00 謡曲会（松木千俊先生お稽古）
- 10日（水） 13：00 陶陶句会
兼題「蓑虫」および当季雑詠から5句を投句（8月31日までに）
- 11日（木） 14：00 公開 第13回 対面&オンライン講演会
「世界秩序の変容と中国」
高原明生氏（東京女子大学特別客員教授、東京大学名誉教授、当
会顧問）
- 13日（土） 11：00 一石会囲碁例会（於 7階談話室）
- 19日（金） 14：00 公開第5回【21世紀アジア塾】講演会
「矢吹晋先生との自由討論会」（仮題）
福島靖男氏（当会理事）
- 25日（木） 14：00 公開 第14回 対面&オンライン講演会
「笑顔の若き実業家から世界を揺るがす大統領へ——トランプ37年
の変貌」
植山周一郎氏（㈱植山事務所代表取締役社長）

9月の会議予定

2日（火）13：00	国際交流委員会	17日（水）15：00	広報委員会
9日（火）14：00	環境委員会	24日（水）13：30	東北委員会
12日（金）14：00	講演委員会	26日（金）13：30	理事会

※下線は通常日程に変更あり。

【10月初めの講演会予定】

- 2日（木） 14：00 公開 第15回 対面&オンライン講演会
「日韓国交正常化60周年と日韓交流」（仮題）
西野純也氏（慶応大学東アジア研究所長・朝鮮半島研究センター長）
- 8日（水） 14：00 公開 第16回 対面&オンライン講演会
「日本人の海外移住」
岡野護氏（海外日系人協会常務理事、海外日系新聞放送協会理事長）

みんなの 写真館

書画に見る日中交流の精神世界⑦

(協力：橘倉酒造不重来館)

郭沫若（1892～1978年）

中国の詩人、作家、歴史学者。1914年日本留学、九州帝国大学医学部に学んだ。中国共産党による南昌蜂起に参加、国民党の追及を避けて28年日本に亡命、抗日戦開始後帰国。建国後は副総理、科学院院長などの要職を歴任する一方、古代史研究、史劇などにも業績を残した。

書：郭沫若（福岡市内の金印公園に詩碑がある）

戦後 頻りに傳わる友誼の歌

北京の聲浪は銀河を倒す

海山の雲霧は 朝に崇ちて集まり

市井の霓虹は夜に入りて多し

舊を懷えば幸いに堅き交りは石の似く

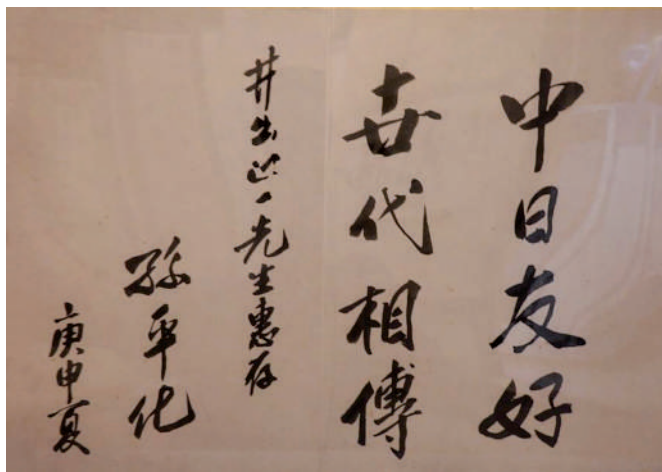
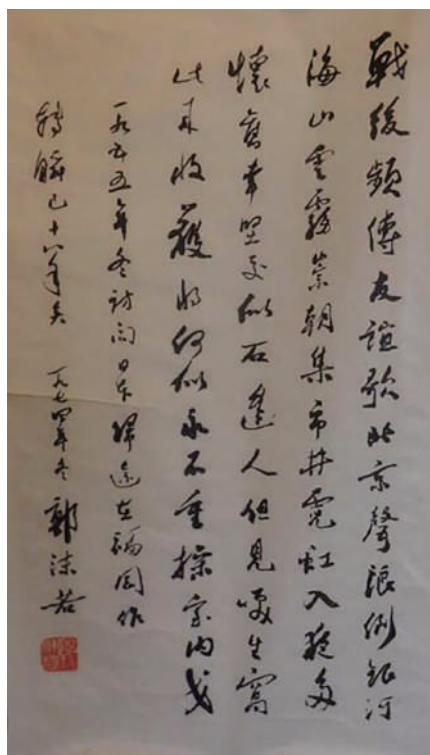
人に巡り逢えば但見る 笑み窩の生ずるを

此 来りて收穫は將に何に似たるや

永えに重ねて 室内の戈を操とらじと

一九五五年の冬 訪日帰途 福岡にて作る

瞬く間に十八年の歳月が流れた 郭沫若



孫平化（1917～97）

中国の政治家。日本語が堪能な中国きっての知日派として知られた。1944年に中国共産党に入党、旧満洲で地下活動を担った。知日派の代表格であった廖承志のもとで、一貫して対日工作を担い、日中国交正常化にも尽力した。

書：孫平化

中日友好 世代相傳

井出正一先生惠存

孫平化

庚申〔1980〕夏